

授業科目 比較言語研究	単位 2単位
授業担当者 菊澤 律子	授業期間 後 期
授業の題目と概要 「手話言語学」 言語としての手話の位置づけと、手話を言語として記述するために必要な言語学の基礎を学ぶ。また、手話話者コミュニティーの文化を対象とした「デフ・スタディーズ」の概念を理解することを目的とする。	
授業の内容と計画  文献購読を中心とする。毎回の授業までにその回の課題論文を精読しておくこと。授業では課題論文の内容について討議する。	
使用する参考書、参考論文等 ◆受講前に目を通しておくことが望まれる文献 市田泰弘「手話言語学入門(1)」 <a href="http://slling.net/intro/intro1.htm">http://slling.net/intro/intro1.htm</a> 市田泰弘「手話言語学入門(2)」 <a href="http://slling.net/intro/intro2.htm">http://slling.net/intro/intro2.htm</a> Groce, Nora Ellen. 1988. <i>Everyone here spoke sign language: Hereditary deafness on Martha's vineyard</i> . Harvard University Press. Mathur, Gaurav and Donna Jo Napoli (eds). 2010. <i>Deaf around the world: The impact of language</i> . Oxford University Press. ◆購読のための文献については、その都度指示する。	
成績評価基準 出席率と毎回の課題による。	
その他の留意事項 履修対象者は、原則として言語学の基礎的な知識(音声学、音韻論、形態統語論、比較言語学)を有する者とする。受講希望者は、登録前に授業担当者に連絡をとり、授業の内容や受講の可否について確認すること。	